

義太夫

義太夫協会々報
第17号

昭和54年1月19日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館 TEL(541) 5471

外国人の義太夫研究

会長 吉川英史

モービル石油株式会社は、内容の充実した「モービル文庫」というポケット本を出している。その最近号の表紙には文楽の首(かしら)の写真が色刷りで載っている。

この号は「一流について その2」という表題で、七つの小論から成るものであるが、その中の二つは、ドナルド・キーン氏の「序」と、バーバラ・足立女史の「継承者とそれを見守る人たち」で、「文楽の伝統と隆盛」という大見出しで纏められている。

ドナルド・キーンは、日本文学研究者として有名な米国人で、バーバラ・足立は文楽研究者で、英字新聞の論説家であるが、結局、

この二つの文は昨年五月に、モービル石油が日本創業八十五周年を記念して、講談社から出版した「文楽の人びと」という豪華本からの転載である。この本は和文と英文と両方あり、協会にも一本寄贈されるはずである。

とにかく、外国人には文楽などは分からないといわれた時代は過ぎた。いや、外国人も理解や鑑賞の段階から、今や研究や実習の段階に移ってきたのである。その一つの例は、ハワイからロバート・ランという青年が、国立劇場の文楽研修生に仲間入りして、義太夫三味線を学習したということがある。又、最近ドイツのケルン大学の音楽学院生レーゼ

ハインツ・ディータという学生が来日し、国立劇場関係者のお世話で、竹本越道師に義太夫三味線の稽古を受け始めたということである。

実は、義太夫ばかりでなく、日本の民謡や能を研究に来日し、芸大に籍を置いているアメリカ人が三、四人もいる。音楽といえば西洋音楽だけを指し、日本の音楽は世界の音楽から孤立した、どうしようもない芸能であると考えられていた戦前のことを考えると、夢のようにある。その変わり方は、自動車といえば、アメリカやヨーロッパからの輸入品と思っていた日本人が、アメリカやヨーロッパに自動車の輸出をしすぎるといって文句をいわれているのと同じである。——いや、それほどでもないが……。

こんな状態で気をよくしていたわたしであるが、豊沢猿幸さんの逝去は残念であった。そういえば、義太夫界ばかりでなく、昭和五十三年は、邦楽界の大切な人をたくさん失った年であった。五十四年はどうか良い年でありますように、義太夫協会発展の年でありますように、心から願う次第である。



1979

初春のごあいさつ

副会長 豊 沢 仙 広

新年おめでとうございます。

世上のごたごたを余所に芸術三昧によい年を迎えました。八十歳になりました私、いつまで三味線が弾けるかと、今日一日一日を楽しんで勉強しているこの頃です。義太夫協会も年を重ねる毎に充実して参りました。よき会長をいただいている幸と、会員皆様御支援の賜と、役員一同感謝致しております。

義太夫教室の生徒さん達、張り切って勉強に勤しんでおられます。この生徒さん達は賛助会員皆様の後継者ですから、義太夫節は益々盛んになる事と喜んでおります。

義太夫教室から入会した若手の正会員、この三年間に半数は結婚されましたが、子供をお姑さんにあずけて毎月本牧亭公演に

出演勉強しております。正会員のよき後継者と役員一同楽しんで指導しております。本牧亭のお客様もすっかり若返ってきました。NHK歳末助け合い運動に参加した十二月の本牧亭公演は大入満員の盛況で、第八回を無事に終り、皆様と共に徳をつませて頂きました。出演者一同にりかわりまして厚く厚く御礼申し上げる次第でございます。

さあ、今年には義太夫協会の人間造りの仕事がどこまで発展いたしますか。近松文学、この義太夫を好きになって下さる方が一人でも多かれと、皆様の御健康と共にお祈り申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

昭和五十四年 初春

義太夫教室創立三十周年

記念研究発表会開かる

— 五十三年十月二十一日 —

五十歳の第一期生から十代の三十一期生までが一同に会し、のべ七〇名に及ぶ出演者で楽屋はギューウギュー。仙広副会長の「いざれのお嬢さんもお坊ちゃんも、とても素人

とは思えない」というユーモラスな挨拶のとおり、日頃の勉強ぶりが遺憾なく発揮され、義太夫を支える層の厚さをしみじみ感じさせる一夜であった。

収入の部

| | |
|------------|----------|
| 御寄附 | 一〇五、〇〇〇円 |
| △内訳▽坂本 イマ様 | 三〇、〇〇〇円 |
| 新小 松様 | 二〇、〇〇〇円 |
| 菅野 光雄様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 佐々木明郎様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 竹本土佐広様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 増田いね子様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 中島 古平様 | 五、〇〇〇円 |
| 日置 教雄様 | 五、〇〇〇円 |
| 飯島八重子様 | 二、〇〇〇円 |
| 出月 清人様 | 二、〇〇〇円 |
| 無名氏 | 一、〇〇〇円 |
| 出演費 | 八〇、〇〇〇円 |
| 懇親会会費 | 六二、〇〇〇円 |
| 合計 | 二四七、〇〇〇円 |

支出の部

| | |
|----------|----------|
| 会場費・会場諸掛 | 五九、〇〇〇円 |
| 弾き合せ会場費 | 四、九〇〇円 |
| 交通・通信費 | 二〇、〇〇〇円 |
| 印刷費 | 三一、一〇〇円 |
| 床世話・荷上料 | 二〇、四〇〇円 |
| 車代 | 一七、五〇〇円 |
| 懇親会 | 九四、一〇〇円 |
| 合計 | 二四七、〇〇〇円 |
| 差引残 | 〇円 |

古實と作品

— 附・雑感 —

内野 三恵



第17号

報 々 会 協 夫 太 義
これに劣る者が、下手に書きかえる。坪内逍遙は古典はいじらないがよいとされた。当にならぬ古實と、作者のでっちあげる作品を比較研究するのは、ばかばかしい気もする。が、実は大事な点が多々ある。作者は事件について、より大きく人の心を打つ工夫をする。また古實が単純すぎたり、作の時代が離れていると、古實に新味の加工をしたくなる。時代物にこの傾向がつよい。更に歴史や事件にまっ正直にいくと、封建時代には作者は直に筆禍の罰をうけた。まるで嘘八百の靈験・怨霊・変化ものなどは味がふかい。名人・奇人・義人・俠客・盗人・悪党・毒婦・淫婦ものに見所があり、現存もする。

私は芸能人に音曲・演劇の作品内容を真実として、作中人物の役柄になり切って、演技

して欲しい。身替りものなど殆ど全部虚構と
思うが、どうせ嘘なんだから、では客に感動
を与え得ない。

附・雑感

若い方々の義太夫上達法で、申したいこと
は、まず第一に、義太夫の咽のどを作ること。義
太夫ほど技能者に、非生理的な要求をしてい
る芸能は他にない。それは声帯の酷使だ。例
えば人物の年齢が子役から爺婆まで、同年輩
でも男女・身分・職業・人柄など百般の差が
ある。子役に年・男女・身分・事情がある。
巡礼おつるは八歳だ、それで父母を尋ねて一
人旅をしている。頗る気丈な子だ。それを終
始五歳くらいのおまったれ口調で語って、一
度も気丈な点をみせぬのは、演者の心が細か
く行届かぬからだ。私は若い方々が、速に優
れた義太夫を語りたければ、二十二、三歳ま
でに、思いきり太い声、爺婆の声、同性同齡
なら身分を声により口調により語り分ける。
修行練習により、声帯を柔かにして広げ、の
び縮み自由にすることである。天与の美声の
持主で、音量も豊のばあい、却ってそれが仇
となって楽に声だけで語り、さわりなどで拍
手されてよい気になって、うかうかと歳をと
る。三十歳になると声帯の訓練改善は至難で
ある。かくして一本調子に終ってしまう。

義太夫声学で、ぜひ学びたい老大家が身近
にある。あの声、声の操り方、天分ではない、
修行である。若いうちの修行なのである。呂
昇は美声で売ったが、買った耳が悪いのであ
る。声帯で嬉しい特長は、体中で声帯が一番
老化の遅いことである。そのため耳や目が弱
っても老人が若々しい高調子で話をする。

ついでに伴奏について一言申したい。洋楽
も同様で、声楽家が唱う、伴奏のバイオリン
がかん高くキーキーウキウウやられたら
声楽家はダウン。少くともバイオリンが気にな
って演奏会は不成功に終る。義太夫も全く
同様、語り手の音階より、ちょっと低めで内
輪の伴奏の方が義太夫が生きる。殊に素語り
の時、三味が高調子であったり、掛声が多す
ぎたり、掛声の聲が高すぎたりしたら、語り
手は降参だ。近くへ寄って、みっちり、しん
みり聴きたい時ぜんぜん聴けない。

と言って、三味線弾きが、語られている義
太夫にも、きいている客にも、全くそっけな
く、掛声もまれに、それも聴こえぬ程小さく、
身動きひとつせぬ、と言わんばかりの伴奏も
味気なく、芸に気合が入らぬのかと思うとそ
うではない。タイプなのである。勿論三味が
上体を大揺りするのは、いやしとされるが殆
ど動きのないのも、語り手を気合にのせぬ不
利があるように思う。

1979. 1. 19

義太夫協会々報

第17号

協会の動き

昭和53年8月より
昭和54年1月まで

〔昭和五十三年〕

8月20・21日 女流若手盛夏勉強会 初の試

みとして、若手とベテランの組合
せを行い、好評であった。

於本牧亭

8月22日 定例理事会 53年度諸事業の運営

について 於新小松

9月20・21日 本牧亭興行三十年記念 義太

夫協会公演会。結相撲普二代鑑

秋津嶋切腹の段の復活上演も行わ
れ、盛況。於本牧亭

10月20日 義太夫協会公演会 於本牧亭

10月21日 義太夫教室創立三十周年記念研究

発表会 第1期生〜第31期生まで
のべ70名が出演、日頃の勉強の成
果を発表した。(2頁参照) NH
Kのテレビロータリーでこの模様
が報道された。於本牧亭

10月25日 公演委員会 忠臣蔵および、東京

部邦楽演奏会の配役等協議 於新
小松

11月6日 文化庁芸術関係団体補助金交付手

続等の説明会 於日本芸術院会館

11月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

11月24日 邦楽連合会 於古曲会

12月3日 NHKに助成金申請書提出

12月15日 NHKより助成金20万円入金

12月16日 忠臣蔵総稽古 於新小松

12月20日 第八回心身障害児のための慈善公
演 共催NHK厚生文化事業団

(5頁参照) 於本牧亭

12月21日 昭和53年お名残り公演 前日同様

仮名手本忠臣蔵を総出演にて演奏
鶴澤三生も全快し、14ヶ月ぶりの
舞台。久しぶりの伴・九太(20日
土佐広、仙広。21日 越道・素八)
に場内は大わきだった。於本牧亭

12月25日 昭和53年度祖先祭 本堂にて読経

後懇親会。会長より「いま生きて

いる人がどうするかによって亡く
なった人の価値が上がったり下っ
たりする。我々が先輩に対して出来
ることは義太夫を盛んにすること」

との挨拶。他に口唱歌(口三味線)
の重要性、口上・宵ぶれ、折も研
究する必要があること等、賑やか
に話し合われた 於回向院

12月25日 定例理事会 学校巡演・事務所に
ついて他 於回向院

12月28日 仕事おさめ

〔昭和五十四年〕

1月8日 仕事はじめ

1月19日 会報第17号発行

竹本雛太夫師

叙勲おめでとうございます

さきに人間国宝(重要無形文化財保持者)
に認定された竹本雛太夫師(前号会報に
て御紹介)が、昨年の叙勲で、勲四等
旭日小綬賞を受けられました。
重ねてお祝い申し上げます。

1979. 1. 19

第八回心身障害児のための

慈善公演

——決算報告——

(昭和五十三年十二月二〇日)

昨年暮の第八回慈善公演には、寒い中をいっばいにおはこび下さいまして、まことに有難うございました。また、郵便振替、現金書留等で御協力下さった皆様にも改めて御礼を申し上げます。おかげさまで左のような成果をあげることが出来ました。

尚、今回もまた、協会参与の高野俊雄様がプログラム・切符の印刷一切をおひきうけ下さいましたことを御報告申し上げます。

収入の部

会場募金箱(20・21日) 五〇、五六〇円
 当日入場料 一八、〇〇〇円
 出演者扱切符代 三五、八〇〇円
 協会扱御寄附 三四八、〇〇〇円

△内訳△

土佐会様 一〇〇、〇〇〇円
 新小松様 五〇、〇〇〇円
 小田切一鳳様 三〇、〇〇〇円
 東京新橋組合様 二〇、〇〇〇円
 石塚晃三様 一〇、〇〇〇円
 内野正幸様 一〇、〇〇〇円
 岡副鉄雄様 一〇、〇〇〇円
 坂本朝一様 一〇、〇〇〇円
 菅邦夫様 一〇、〇〇〇円

鈴木一光様 一〇、〇〇〇円
 増田いね子様 一〇、〇〇〇円
 松尾武市様 一〇、〇〇〇円
 宮脇雪むら様 一〇、〇〇〇円
 吉田幸三郎様 一〇、〇〇〇円
 新小松従業員様 五、〇〇〇円
 関谷欣生様 五、〇〇〇円
 寺中作雄様 五、〇〇〇円
 中村初波奈様 五、〇〇〇円
 和田博様 五、〇〇〇円
 渡辺兼造様 五、〇〇〇円
 黒田敏夫様 三、〇〇〇円
 島春栄様 三、〇〇〇円
 竹本扇太夫様 三、〇〇〇円
 平井おひろ様 三、〇〇〇円
 瀬戸文広様 二、〇〇〇円
 田香隆様 二、〇〇〇円
 豊沢重松様 二、〇〇〇円

合計 四五一、三六〇円

支出の部

心身障害児の為の寄附金 二〇〇、〇〇〇円
 本牧亭席料諸掛 六五、〇〇〇円
 通信費 四九、五八〇円
 交通費 四、七八〇円
 床世話・荷上げ料 二六、〇〇〇円
 謝礼・祝儀その他 四八、〇〇〇円
 総稽古諸経費 二二、一五〇円
 諸雑費 三六、八五〇円

合計 四五一、三六〇円
 差引残 〇円

歌舞伎の海外公演あいつく

一月は中国で二十四年ぶりの歌舞伎公演。梅幸・松緑さん他で忠臣蔵・鏡獅子が上演される。二月は、ワシントン中心にアメリカ公演。勘三郎さん他で演目は俊寛。

以上二公演に、協会理事竹本扇太夫はじめ、豊竹和佐太夫、豊沢松三郎、豊沢演若、豊沢登緑他の皆さんの参加が決っている。

御健闘を!

ハワイで忠臣蔵

ハワイ大学東西センター(東西の演劇・音楽等の研究所)では、日本演劇・歌舞伎をテーマに半年間にわたる研究が行われ、三月初旬に忠臣蔵が通して上演されることになった。俳優・義太夫・清元・長唄・囃子等すべて学生によって行われる。それらの講師として、中村又五郎、中村又蔵、田中佐太郎他の各氏、義太夫(竹本)からは竹本綾太夫が、現在ハワイで指導にあたっている。稽古は全部日本語、本番ではせりふ・浄瑠璃が英語に切り換わるという話。ハワイでの出来事は次号にて御報告の予定、おたのしみに。

講師は、二月下旬帰国予定。

近松とその時代 (投稿)

桑原 須賀夫

第17号

元祿のはじめ頃から、近松が浄瑠璃の筆を断ち、主に京都の坂田藤十郎一座のために、専ら歌舞伎をかいていたことはよく知られている。何故であろうか。これはやはり時代の趨勢と云うべきであろう。京都に藤十郎があれば江戸には団十郎があつて、まさに元祿歌舞伎華やかなりし時代だったからである。周知のように、歌舞伎は浄瑠璃から栄養を吸収して育つた訳だが、人気のほうは、時代によつてあきらかな交替が見られる。「江戸時代において、その初めは浄瑠璃が優勢であり、元祿期には両者があいならんで完成の域に達し、その中にはまた浄瑠璃が優勢となり、歌舞伎を圧倒したが、宝暦・明和頃からは歌舞伎が優勢におもむく傾向が生じた」(児玉幸多氏『元祿時代』による) 両雄の鎗を削る様子が分るが、話を歌舞伎に限っても、当時の新興都市江戸と、古い伝統をもつ、風雅柔婉を好む京都とは大部事情が違つていたのではなからうか。金平浄瑠璃をもつてした江戸の荒事なら、要するに、無敵の主人公が無邪気にあばれ廻つていさえすれば、客は喜んでるのであるから、筋立ても簡單明瞭、団十郎の自作自演でよからうが、藤十郎の和

事となると、そう云う訳にはいかなかつたであろう。いつまでも同じ「傾城買」では客が厭きるし、第一藤十郎自身それでは満足出来まい。菊地寛の小説に、藤十郎が役の工夫に詰つて、祇園の料理茶屋の女房にニセの恋をしかける、と云うのがある。それ程苦心(?)な藤十郎が近松の才能を見逃す筈はない。それでなくとも、自分の一座に秀れた作者を迎えて江戸歌舞伎や人形浄瑠璃を圧倒してやろうと云う気を起こしたとて何の不思議もない。近松を藤十郎にひきあわせたのが宇治加賀塚であることは今日学界の定説である。近松学者森修氏(大阪大学)は小学館の日本文学全集の解説で次のように述べている。「近松は公卿に仕えて文人としての教養をつんでいくうち、加賀塚との間に交わりを生じ、浄瑠璃作者となつたものであろう。加賀塚と藤十郎とは親しい間柄で、その関係からも歌舞伎に手を染めるようになったものであろう」つまらない解説文の見本のような文章である。いったいこんな解説で何が分るのであろうか。既にかいた通り、藤十郎から近松への強力なアプローチがあつたのではないかと云うのが私の持論である。

さて、近松が藤十郎に与えた歌舞伎作品としては、『傾城仏の原』(元祿十二年)、『傾城壬生大念仏』(同十五年)の二作品が有名である。どちらもお家騒動を扱つた時代物で内容も複雑であるが、最後は悪人滅んで善人栄え、お家はご安泰めでたしめでたしの総おどりとなる。勿論、見どころが藤十郎のやつしや濡れ場にあることは云うまでもない。常套的ではあつても、入り組んだ筋立のなかに役者の個性を生かすと云うのは、やはりなかなかの才では駄目である。藤十郎が近松を必要としたゆえんであろう。

藤十郎について記して一方の雄団十郎に言及しないのはいさゝか片手落ちである。

初代団十郎が「ごろつき」だったと云う有名な話がある。「かぶくとはあばれることであつた。かぶき者、かぶき衆とは、異風をしてあばれ廻つた連衆のことである。後には、あぶれ者などと云ふ語をさへ生むようになった程で、もともと彼らはごろつきだったのである。山三が津山で切り死にをしたといふのも、彼があばれ者だったからである。団十郎が舞台で殺されたのにも、さうした関係があつた。荒事などといふものが演じられたのも決して偶然的発生ではなかつたに相違ない。」(折口信夫氏『ごろつきの話』) こうした秀れた文章を読むと、何か時代の息吹きが身に

1979. 1. 19

ひしひしと感ぜられて興味深い。一般の通念では、元祿風と云うと、とかくデレデレゾロゾロした派手なきものや、紀文、奈良茂に代表される、成り上り者の豪奢な生活ぶり、あるいはまた光淋、宗達などの華麗で装飾的な美の世界が連想されがちである。それも一面の事実には違いないが、他方、こうした荒々しく尚古的で、乱暴狼籍や異形をよろこぶ風潮をも見のがしてはならぬであろう。なによりも、それが浄瑠璃や歌舞伎を発生せしめた土壌なのであるから。折口氏はそうした風潮を「美的乱暴」と評している。してみると、あの阿国歌舞妓などもこうした気分と無縁のものではないことが分る。私は過日「柳生一族の陰謀」というチャンバラ映画を見た。その中に阿国と山三が出て来る。ミスキャストが目立つ上時代考証のでたらめなことは一応おくとして、いちばん気に入らなかつたのは、阿国と山三がまるきりおどりをおどらぬことであつた。阿国は中世風の能衣裳で舞扇を手に、「月やあらぬ春やむかしの春ならぬわが身ひとつはもとの身にして」などと古歌を口づさみながら大人しく舞台を廻るだけなのである。が、これはあきらかにかかしい。第一これでは「かぶき」ではない。すこしもかぶいてはいないのである。阿国の「かぶき」が中世の幸若舞いの系統をひくものだとしても、

第17号

その特色は中世風の舞いではなく、近世的なおどりにあるべき筈である。中世の狂女が冷たい情念を内に秘めて舞い狂つたのとは逆に、阿国は自己を炎と燃やして解放的におどり狂つたのである。彼女は家康などの前で演じたこともたびたびあったという。居並ぶ諸大名たちが拍手喝采を惜しまなかつたのは、阿国が舞いの上手だったからではない。また、たんにおどりの名手と云うことでもないであらう。云うまでもない。阿国の芸が斬新にして強烈な魅力をもっていたからであり、なによりも「美的乱暴」の精神にかなっていたからにほかならない。この時代の屏風や絵巻、歌舞伎図巻には阿国の男装を描いたものが多し。相手の山三は「伝説によると、蒲生氏郷の寵を受け、当時有名な美少年」（折口氏）である。前髪だての男装の麗人と水もしたたる美少年が「いざやかぶかん、いざやかぶかん」と囃したてながらの官能的な舞台は想うだけに身がゾクゾクするのを禁じ得ないのである。

只今名簿製作中

あとひと月ほどで、新しい名簿をお届け出来ると思います。高野俊雄様が全面的におひきうけ下さって、只今製作中です。住所変更等の御連絡はお急ぎ下さい。

▼都築八郎（入船堂）氏 53年8月7日逝去
永年、本牧亭御定連として、女流義太夫を御後援下さいました。 参与

▼菊地久吉（秋月）氏 53年9月7日逝去
東都素義会の第一人者として有名でしたが、特に義太夫協会には物心両面とも多大なお力添えを頂いておりました。 常任相談役

▼吉川二郎氏 53年9月25日逝去
義太夫協会顧問

▼竹本光末師（正会員） 53年10月1日逝去
早稻田演劇博物館・前進座等で、若い人の指導に熱を入れておられました。理事

▼豊沢猿幸師（正会員） 53年12月10日逝去
女流義太夫三味線の第一人者といわれ、45年無形文化財記録保持者に認定、51年勲五等瑞宝章を受賞。告別式は12日、吉川英史会長が葬儀委員長となり、役員他多数参列のもと、しめやかにとり行われました。 理事



義太夫協会にとって大事な方ばかりが亡くなられ残念でなりません。皆様の御冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

1979、1、19

'79 都民芸術フェスティバル

第九回邦楽演奏会

＊ 昭和五十四年二月二十五日(日)
＊ 於 第一生命ホール

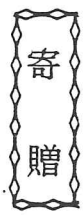
主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古典会・新内協会)
常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会
後援 東京都

第一部 (十二時半開演)

- 一、一中節 松の羽衣
- 二、長唄 紀州道成寺
- 三、尺八 鹿の遠音
- 四、義太夫 傾城阿波鳴門 巡礼歌の段
お弓 竹本 土佐広
おつる 竹本 土佐菊
三味線 豊澤 仙廣
- 五、清元 助六(助六曲輪菊)
- 六、新内 蘭蝶(若木仇名草)
- 七、三曲 八島
- 八、常磐津 宗清(恩愛蹟関守)
(終演予定 四時)

- #### 第二部 (四時半開演)
- 一、長唄 月の巻
 - 二、地唄 茶音頭
 - 三、義太夫 傾城恋飛脚 新口村の段
孫右衛門 竹本 越道
 - 梅川 竹本 春華
 - 忠兵衛 竹本 駒龍
 - 捕手 竹本 越若
 - 三味線 鶴澤 三生
 - 四、清元 鞍馬獅子(夫婦酒替ぬ中仲)
 - 五、河東節 神楽獅子(式三献神楽獅子)
 - 六、常磐津 将門(忍寄恋曲者)
 - 七、新内 花井お梅 (大川端)
 - 八、三曲 春の曲
(終演予定 八時)

お問合せ・お申込みは事務局まで



| | | |
|------------------|-----------|------|
| 渡辺 春芳様 | 歌舞伎プログラム | 多数 |
| 八木太呂夫様 | コマ | 五ヶ |
| 豊澤 新兆様 | 象牙パチ | 一丁 |
| | コマ | 四ヶ |
| | 台本 | 八冊 |
| | 五行本 | 三十二冊 |
| | 等粉 | 一袋 |
| 河野 国声様 | テープ(寺子屋他) | 一本 |
| 間庭 勝様(故豊澤猿樂師御遺族) | 道中双六SP | 十枚組 |
| | 他SPレコード | 十六枚 |
| | 幕 | 二枚 |
| | 糸 | 少々 |
| | 肩衣 | 六組 |
| | 合ビキ | 一組 |
| | 五行本他 | 七冊 |
| 鶴澤 成佳様 | 象牙パチ | 一丁 |

編集後記

おめでとうございます。外国人が義太夫を研究したり、歌舞伎を上演したりする昨今、邦楽とばかりもいってられない時代ようです。それにしても心配なのが若い人の外人化現象、協会は今後も特に学校巡演(文化庁助成)に力を入れて若い世代にアピールしたいと考えております。会員の皆様の御協力をお願いする次第です。御意見、御叱責等々、編集部までお寄せ下されば幸いです。